



鎌倉市制80周年



この子を残して



ひろしま



この世界の片隅に



蜂の巣の子供たち

夏のシネマセレクション

ヒロシマ・ナガサキ

1945.8.6. 08:15 a.m.

1945.8.9. 11:02 a.m.

2019年8月12日(月・振休)・14日(水)ー18日(日)

<上映スケジュール>

8月12日(月・振休)	10:30 この世界の片隅に	16日(金)	10:30 蜂の巣の子供たち
	14:00 蜂の巣の子供たち		14:00 この世界の片隅に<バリアフリー上映>
14日(水)	10:30 この子を残して	17日(土)	10:30 この世界の片隅に
	13:30 ひろしま *舞台挨拶あり☆		13:30 ひろしま☆
15日(木)	10:30 ひろしま	18日(日)	10:00 この世界の片隅に<親子上映会>☆
	14:00 この子を残して *映画談話室		14:00 この子を残して

*14日(水)13:30『ひろしま』上映前に「奇跡への情熱…核廃絶プロジェクト」代表プロデューサー・小林開氏による舞台挨拶があります。
☆上映後、鎌倉市被爆者の会の方に戦争体験のお話をさせていただきます。

鎌倉市川喜多映画記念館

当館では毎年夏に、鎌倉市の平和都市宣言に基づき、戦争と平和をテーマにした特集上映を開催しています。市制施行80周年を迎える本年は、昭和20年8月6日広島に、8月9日長崎に投下された原爆の脅威を描き、平和へのメッセージが込められた作品を上映します。また、上映後には、鎌倉市被爆者の会の方々に戦争体験のお話をさせていただく回もございます。映画を通して戦争の残酷さと平和の大切さを語り継ぐ機会になることを願っております。

蜂の巣の子供たち

8月12日(月・振休) 14:00、
16日(金) 10:30



提供：フジネット映画資料図書館

1948年／白黒／35mm／86分

監督：清水宏

出演：島村俊作、夏木雅子、御庄正一、久保田晋一郎、岩本豊、千葉義勝

戦災孤児たちを引き取り生活していた清水宏監督が、その子供たちを出演させてオール・ロケーションで撮影した独立プロ作品。復員兵と戦災孤児たちが、下関から広島、神戸と山陽道を歩いて行く。戦後間もない広島の荒涼とした風景が貴重な記録ともなっている。

この子を残して

8月14日(水) 10:30、
15日(木)・18日(日) 14:00



©1983 松竹映画会社

1983年／カラー／35mm／128分

監督：木下恵介

出演：加藤 剛、十朱幸代、大竹しのぶ、麻丘めぐみ、神崎 愛、山口 崇、淡島千景

長崎で被爆した医学博士・永井隆の同名手記を原作に、木下恵介監督が戦争と原爆への怒りを込めつつ、親子の深い絆を描いた反戦映画。ヨハネ・パウロ2世による演説、峠三吉、原民喜の原爆詩が巨大なオープン・セットで再現された原爆投下直後の長崎と共に平和を訴える。

鎌倉市被爆者の会とは・・・

1967年(昭和42年)に神奈川県原爆被災者の会の支部としては最も早く発足。市内在住の被爆者の健康と福祉の増進を図るとともに、広島・長崎の原子爆弾被害の生き証人として核兵器の全廃を目指すための活動を行っている。

チケット取り扱い窓口：鎌倉市川喜多映画記念館／
島森書店：0467-22-0266／たらば書房：0467-22-2492／
上州屋：0467-43-1000

※チケットが完売した場合はご入場いただけません。

※上州屋でのチケットの取り扱いは8月16日で終了いたします。

主催：川喜多・KBSグループ(鎌倉市川喜多映画記念館指定管理者)

協力：鎌倉市被爆者の会

*作品により映像・音声が必要しも良好でないものがあります。場合によっては上映素材・作品の変更がありますことをご承知ください。

ひろしま デジタルリマスター版

8月14日(水)・17日(土) 13:30、
15日(木) 10:30



© 奇跡への情熱プロ

1953年／白黒／DCP／104分

監督：関川秀雄

出演：月丘夢路、岡田英次、原 保美、利根はる恵、加藤 嘉、山田五十鈴、岸 旗江

自らも広島で被爆した教育学者・長田新が編纂した文集「原爆の子～広島の子供たちのうたええ」をもとに映画化。当時の広島の市民ら約8万8千人が出演し、原爆が投下された直後の惨状を克明に再現した。1955年、第5回ベルリン国際映画祭にて長編映画賞を受賞。

この世界の片隅に

8月12日(月・振休)・17日(土) 10:30、
16日(金) 14:00、18日(日) 10:00



©この時代の-双葉社/「この世界の片隅に」製作委員会

2016年／カラー／DCP／128分

原作：この時代の 監督：片淵須直

声の出演：のん、細谷佳正、稲葉菜月、尾身美詞

広島市江波で育った18歳のすずは、昭和19年、軍港の街・呉へと嫁ぐ。戦争が激化するなか丁寧に工夫しながら日々を生きていくすず。そして、昭和20年の夏がやってくる…。世界各国で公開され、愛され続ける本作は、ヒロシマを後世へと伝える珠玉のアニメーション。

★映画鑑賞料金★

一般 1000円

小・中学生 500円

(入館料含む)

★チケット発売開始日★

7月20日(土)

※親子上映会は、料金・チケットの購入方法が異なりますので詳しくは下記をご覧ください。

親子上映会について

料金 一律 500円

(未就学児は無料)

対象

中学生までのお子様と保護者の方
※大人の方お一人での参加はできません。

定員 51名(先着順)

申込方法

7月20日(土)午前9時より電話(0467-23-2500)にて受付をします。
お名前、人数、年齢、電話番号をお伝えください。

バリアフリー上映について

バリアフリー上映とは

日本語字幕・音声ガイドによる上映です。耳の不自由な方には日本語字幕が鑑賞の助けとなり、目の不自由な方はスマートフォンにダウンロードしたUDCastというアプリを使い、イヤホンを使って場面解説を聞きながら映画をご鑑賞いただけます。

料金

一般500円 小・中学生250円

※障がい者手帳をお持ちの方、及び介助者1名が対象です。

申込方法

7月20日(土)午前9時より電話(0467-23-2500)／FAX(0467-23-2503)／メール(contact@kamakura-kawakita.org)のいずれかの方法でお申込みいただけます。

お申込みの際は①氏名②人数③UDCast貸出希望の有無④連絡先をお知らせください。

*ご自身のスマートフォンにUDCastのアプリをダウンロードしてお使いいただけます。イヤホンと併せてご持参ください。

詳細はこちら→<http://udcast.net/>

*チケットが完売した時点で、お申込みの受付は終了させていただきます。

Kamakura City Kawakita Film Museum
鎌倉市川喜多映画記念館

〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-2-12

TEL:0467-23-2500

HP: <http://www.kamakura-kawakita.org>

開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日 毎週月曜日(祝日は開館)、7月9日～11日(展示替)、7月16日、8月13日

